

鯛生金山

施設管理者 : 中津江村
施設所在地 : 大分県日田市
調査見学時期 : 平成 24 年 9 月 20 日 (木)

施設概要

この金山は、金鉱石が発見されたのが明治 27 年。以来、昭和 47 年に閉山されるまで約 80 年間採鉱されてきた歴史的な産業遺産でもあります。昭和初期、全盛期の鯛生金山坑道の総延長は 110km、地下 500m にも達する立坑が 5 本も掘られ、東洋一の金産出量、従事者 3000 人を抱える大金山でした。

この金山の中へ踏み入ると当時の採鉱の有り様が、良く解りました。立坑を上下する巻き上げ機は、200 馬力でその速度は、驚くことに毎分 300m であり、まさに高速エレベータのようでした。(GEC ニュース第 278 号より抜粋)



200 馬力立坑巻上機



深さ 500mの立坑

鯛生金山

施設管理者 : 財団法人 中津江村地球財団 鯛生金山観光管理事務所

施設所在地 : 大分県日田市中津江村

調査見学日時 : 平成 22 年 9 月 15 日

施設概要

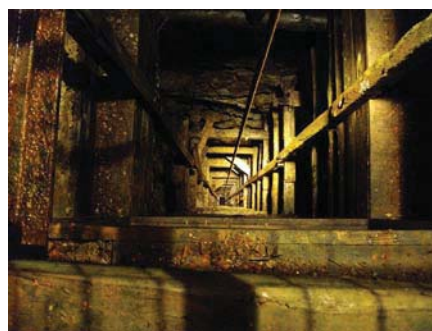
鯛生金山は明治 22 年に発見され、明治 31 年から採掘が始まった比較的新しい金山です。昭和 13 年には年間算出量 2.3 トンと国内第一位を記録し「東洋一の産金鉱山」と呼ばれましたが、その後新しい鉱脈が見つからず昭和 47 年に閉山しました。閉山するまでの約 80 年間で金約 40 トン、銀約 160 トンを算出しています。昭和 58 年から地底博物館として整備され、平成 19 年には経済産業省から「近代化産業遺産」に指定されています。

鯛生鉱山は、日韓合同開催のサッカーワールドカップに出場したカメルーンのキャンプ地として著名な中津江村にあります。大分県と福岡県にまたがる鉱脈鉱床を対象として、5 本の主要立坑とそれらを結ぶ水平坑道からなり、最深部は地表から 700m ほどに達しています。現在は、最上部の水平坑道のうち延長約 800m の坑道が見学可能で、堅坑ゾーン、採鉱場ゾーンおよび初期採鉱ゾーンの三つのテーマに分けて展示されています。堅坑ゾーンでは、巨大な巻上機が展示され、深さ 510m の堅坑を上からのぞくことができます。採鉱ゾーンでは実際に使用されていた掘削機器や電気機関車が展示されています。初期採鉱ゾーンには金色に輝く夫婦鯛が展示されています。また、併設されている資料館には、国内外から集められた希少な鉱物や化石が展示されています。

鯛生金山はここを江戸時代の隠し金山とみたてた松本清張原作のテレビ時代劇「西海道談綺」の舞台ともなり、ロケ風景やテレビ映画を紹介した展示もされています。



見学坑道の入口



深さ 510m の堅坑



堅坑巻上機



奥まで延びる水平坑